今月の ソリューション事例

ネットワールド

アイネットが、IaaS型のクラウドサービス「VAiOS Easy Cloud Services」の基盤にVMwareと、FortiGateを採用

ITインフラのソリューション・ディストリビュータであるネットワールドは、アウトソーシング／データセンター事業を幅広く展開するアイネットのIaaS型のクラウドサービス「VAiOS Easy Cloud Services（以下、Easy Cloud）」の仮想化基盤に、ネットワールドが提供するインフラストラクチャ仮想化ソフトウェア「VMware vSphere 4」、および、UTMアプライアンス「FortiGate-310B」が採用されたことを発表した。

アイネットのクラウドサービス

アイネットは、約40年にわたって情報処理サービス、システム開発サービスをはじめ、BPOを含めたアウトソーシング事業を提供している。2009年10月には、仮想化技術をオール・イン・ワンで提供する新サービス「VAiOS」の提供を開始した。このサービスは、仮想化に向けたキャパシティ・プランニングから、実際の設計・構築、仮想環境への移行まで、プライベート・クラウド構築に必要なプロセスをすべて網羅しており、業界初のVOCR（仮想化運用代行センター）サービスの利用で、仮想化システムの運用自動化と運用管理コストの削減を実現できる。また、インフラの構築、運用をすべてアイネットが提供するIaaS型のクラウドサービス（Easy Cloud）を用意している。

導入システムの要件と成果

FortiGateは、1台のUTMを複数の仮想ファイアウォールとして動作させるVDOM（仮想ドメイン）機能があり、これをVMwareの仮想スイッチ機能と組み合わせ、テナントごとにVLANを切り分けることで、ユーザー企業の端末からルータ、ファイアウォール、L2スイッチ、仮想サーバに至るまで、エンド・ツー・エンドでのセキュアな通信が実現した。さらに、仮想化対応のUTMを用いることで、機器点数を増やすことなく多くのテナントを収容することができる。

ビジネスクラウドに欠かせない信頼性・可用性の確保については、「VMware HA」を全面的に活用し、万一物理サーバに故障などが発生した場合も、問題なく業務を継続することができる。また、標準の定期バックアップに加えて、高機能バックアップ、高速リストアなどのオプションサービスを用意しており、データを格納するストレージも、ネットワールドが提供するEMC社製品を採用し、テナントごとにLUNを切ってデータの独立性を確保している。

仮想化環境でのセキュリティ強化に注力

高品質なクラウド基盤を手頃なコストで利用できるEasy Cloudは、サービス開始以来順調に契約数を伸ばし続けており、アイネットでは、ネットワールドとの協業により、今後もサービス内容の充実を図っていく計画である。ネットワールドは、ファイアウォール、VPN、アンチウイルス、IPSなどのセキュリティ機能を統合したフォーティネット社のUTMアプライアンス「FortiGate」を2009年7月から販売開始しており、従来からの「仮想化」、「ストレージ」、「バックアップ」、「ネットワーク」の4つの柱に、新たに「セキュリティ」を加え、「仮想化環境でのセキュリティ強化」を最重要テーマに掲げて、次世代データセンターでのクラウドサービスを提供するパートナーや事業者への支援を強化していく。

ネットワールド
E-mail：vmware-info@networld.co.jp